

漁民

市民

農民

補償交渉をめぐる  
総代会・総会

尺鮎裁判

収用委員会



収用申請取下げ

シンポ・集会

要望書等提出

住民投票運動

環境調査

治水代替案作成

住民討論集会

議会・選挙対策

河川整備指針

策定対策

川辺川利水訴訟



利水事業撤退

新利水計画策定  
(事前協議会)

世論の高まり → ダム反対派の首長誕生  
(相良村・人吉市・八代市)



# 川辺川ダム反対

## 蒲島知事が

## 「球磨川守るが

国土交通省が相良村に計画している川辺川ダムについて、蒲島郁夫知事が県議会本会議で、「現行計画を白紙撤回し、ダム建設を表明した。同時に、水没予定地を抱える五木村と、県の方針転換は、全国の大規模公共事業はもろろんのは必至だ。」



国交省は今後、球磨川流域の河川整備計画の策定過程で知事に意見を求め、国が知事の意向を無視して強行するのは極めて難しいとみられる。知事は、「流域住民の生命・財産だけでなく、球磨川そのものが守るべき宝」と指摘。ダムの大受益地である人吉市長が計画の白紙撤回を求め



「川辺川ダム計画を白紙撤回し、ダムによらない治水対策を蒲島知事。11日午前、県議会（植山茂）」

2009年9月11日

**ダム建設中止決定！**

**世論が政治を変えた！**

「ダム以

ダ

# 荒瀬ダム撤去へ



2010年1月29日

## 水利権取得 蒲島知事

存廃問題で揺れる水力発電専用の県営荒瀬ダム(藤本発電所)が3月末の期限で失効するとの見解を国土交通省が示したと判断した。全国初の既存ダム撤去―廃ダムへと再び動

# 日本発のダム撤去決定!



について、県は水を使う現行の継続は困難にならぬと判断し、撤去に決意した。蒲島知事は同日、県議団幹部に、年度の撤去着手の発電事業継承について話をしていることを明らかにした。撤去への最大の課題は、撤去費用の確保。国が10割に盛り込んだ準備金交付金の活用など、県財源の確保が課題。蒲島知事は、定例記者会見で、撤去の決意を明らかにした。

## 困難 最終

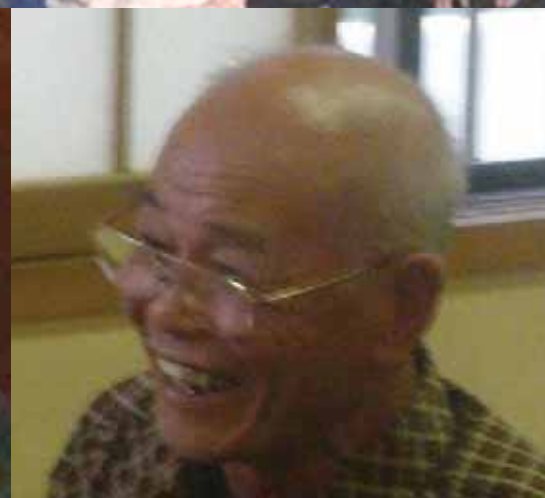
An aerial photograph of a dam with water cascading through its spillways. The water is a vibrant turquoise color, and the surrounding landscape is a mix of green and brown. The text is overlaid on the center of the image.

荒瀬ダムのごート全開  
2008年4月



待ち遠しかった、ゲート全開 2010年4月1日

一番に  
戻ったのは  
人々の笑顔





さよなら!  
荒瀬ダム

いよいよ、本体撤去!  
2012年9月1日





ゲート撤去、水位低下開始



門柱の上部、試験発破



門柱下部、発破



右岸滯筋部撤去



澆筋部堤体消失 H270319



上流からみた荒瀬ダム



ダムの直上流



荒瀬ダムの直上流





↓満水位線

多くの瀬や淵が出現

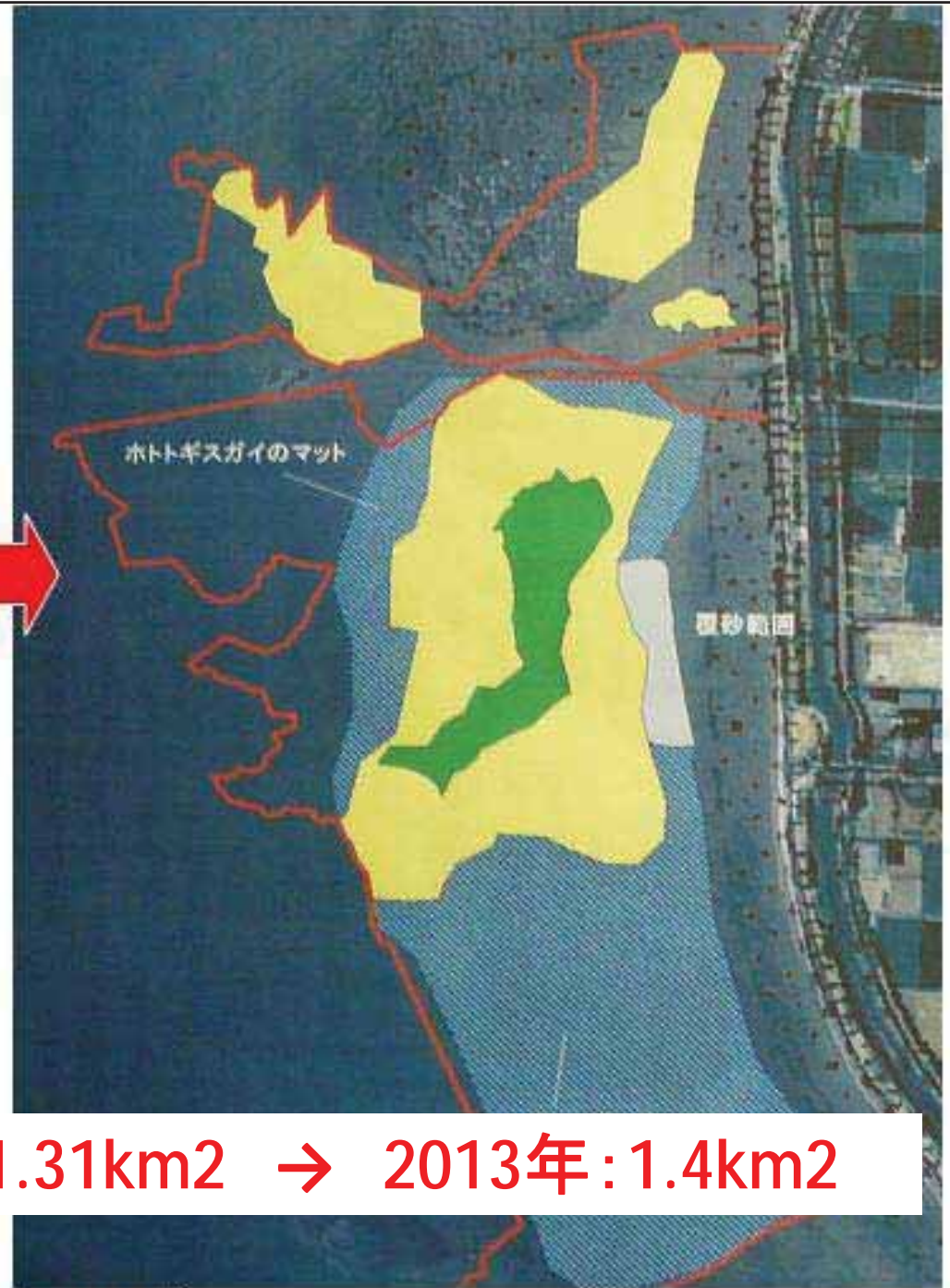


ゲート全開後、1.5～3mにも伸びるようになった青のり

# 藻場の変化



2009年



2011年

2007年:ゼロ → 2011年:1.31km<sup>2</sup> → 2013年:1.4km<sup>2</sup>



大量の時もあるけどまだ安定しない

クマエビ Green Tiger Prawn

マテガイ

ウナギ Eel

ガザミ blue crab



アナジャコ



モンコウイカ



シラス




ハゼ



ヒラメ



ゲート解放後、多くの人が干潟を楽しんでいる



**荒瀬ダム撤去で蘇った流れを利用した  
新しいレジャー産業も生まれつつある**

**ハイドロスピード**





子供もアユも川に戻ってきた

Children and fish returned by and in the river

しかし、本流にはアユはなかなか戻ってこない！

撮影：溝口隼平氏



国内外の注目を浴びる公共事業

An aerial photograph of a river basin, showing a network of waterways and surrounding land. The text '多い流域の課題' is overlaid in the center, with a reflection effect below it.

# 多い流域の課題



瀬戸石ダム

ダムがある川という現実是不変



## 瀬戸石ダム湖

ダム湖の底には、5m以上の土砂が堆積している。

**水害の原因は亡くならない**



## 変わらぬ瀬戸石ダムの水質悪化

荒瀬ダムの下流には、瀬戸石ダム湖の  
汚い水しか流れてこない

瀬戸石ダムがゲートを開ければ、放流された泥が干  
潟を覆い尽くす現状も変わらない。





下流の堰が、依然として生き物の移動を妨げている。

遥拝堰





放置された植林

光が届かず、下草も生えない保水力が低下した森

# シカの食害





球磨川河口のコンクリート護岸  
=16日、八代市(横井誠)



ニホンウナギ(東京大提供)

岸边をコンクリートで固める護岸などをした割合が高い河川や湖沼ほど、ニホンウナギの漁獲量の減少が激しいとの解析結果を、東京大気海洋研究所などのグループが16日までにまとめた。調査した全国の河川のうち、護岸率、減少率ともに球磨川(1位)、緑川(2位)の県内2河川が上位を占めた。

グループは、日本の主要なウナギ漁場だった9カ所の湖沼と18河川を対象に、環境省などのデータから護岸工事などで失われた自然の岸辺の割合(護岸率)とウナギ漁獲量の推移との関連を調べた。漁獲量は1960年以降、ほぼ全ての漁場で減少傾向にあり、護岸率が高いほど減り方が激しい傾向があった。河川で護岸率が61%と最も高い球磨川は、漁獲量の減少率

球磨川

緑川

減少率 全国1、2

東大研など調査

も毎年平均14高。県水産振と、75年に89156トあつ05年には14ト球磨川漁協組合長は「30前は、ウナギする漁師がい漁獲が減り生い。近年は遡(シラスウナ、心配しているまた護岸率番目に高い緑も2位(年11反対に護岸率も低い四万十は、減少率がと最低だった湖沼でも、

# 護岸率増→ウナギ漁獲量減

コンクリが多い護岸

●コンクリ護岸率ワースト!

●ウナギの減少率ワースト1



現在下流や干潟を改善させている砂は  
荒瀬ダム湖に50年溜まった砂が供給されているだけ



河口から30kmのところにはダムがあるという状況は変わらない



ゲートを下げて、清流が戻った瀬戸石ダム上流



荒瀬ダム撤去を球磨川の再生のきっかけに

# 荒瀬ダムに続け、長良川！





荒瀬ダム撤去をきっかけにして、豊かな流域を取り戻したい

**END**

川辺・荒瀬ダムに続く、ダム中止・撤去の、ゲート開放の現場にでてきてほしい

**日本の河川行政の方向転換のきっかけに！**

